

2019年度第3四半期決算説明カンファレンスコール（2020年5月14日開催）  
およびアナリストミーティングの主な質疑応答（サマリー）

【3Q実績】

1. 3Q（1月～3月）の受注・売上高の進捗はどうだったか？新型コロナウイルスの影響はあったか？

A：3Qは1・2Qに比べて、FPDやコンポーネントの受注が回復・増加したが、新型コロナウイルスの影響もあり、一部受注がずれ込んだ。売上は新型コロナウイルス等により40億円強等の影響を受けた。

2. 営業利益率が2Qの7%から3Qは10%に上昇したのはなぜか？

A：①2Qの修正開示時に製造固定費増加を見込んでいたが、開発案件の優先順位付けの徹底などにより固定費を抑制し、見込んでいた増加額以上に削減したこと、②業績連動賞与を採用しており今次業績下方修正に伴い、一部引当の戻りが発生し、販管費・製造固定費合わせて8億円減少したこと、③新型コロナウイルスの影響で営業活動等ができず固定費が抑制されたこと、など固定費が2Q比減少したことが主な要因。

3. 3QのFPDおよび半導体電子部品の受注高・売上高の用途別内訳は？

A：〈FPD〉受注：145億円 LCD6割弱、OLED関連約3割、他1割強  
売上：151億円 LCD約7割、OLED関連2割強、他一桁台半ば  
〈半電〉受注：117億円 メモリ約2割、ロジック1割半ば、電子部品3割半ば、パワー1割半ば、  
実装1割半ば  
売上：117億円 メモリ4割弱、ロジック一桁台半ば、電子部品3割半ば、パワー2割弱、  
実装1ケタ台半ば

4. 3Q単独の営業利益率の順位は？

A：1)コンポ 2)半電 3)一般産業（平均） 4)その他 5)FPD・PV 6)材料

【年間予想】

5. 4Q（年間予想-3Q累計実績）は赤字となるとみえるがその要因は？新型コロナウイルスの影響はどの程か？

A：新型コロナウイルスの影響等による受注減少やインストール・検収の延期等により4Qの売上減少が125億円程度見込まれるため、4Qは営業赤字となる見込みである。

6. 通期業績修正後のFPDおよび半導体電子部品の受注高・売上高の用途別内訳は？

A：〈FPD〉【受注高の予測は327億円ではあるが、1Q時の契約解除案件前の受注高、361億円をベースの内訳】  
受注：361億円 LCD5割弱、OLED関連5割弱、他一桁台半ば  
売上：613億円 LCD5割半ば、OLED関連4割強、他一桁台半ば

〈半電〉 受注：426 億円 メモリ 3 割半ば、ロジック約 1 割、電子部品 3 割強、パワー 2 割弱、実装一桁台半ば  
売上：421 億円 メモリ 3 割強、ロジック 1 割強、電子部品約 3 割、パワー約 2 割、実装一桁台半ば

## 【市場環境・今後の受注】

### 7. (FPD) 3Q 及び通期の FPD 受注は予定通りだったのか？

A：2月の修正開示時の受注予想 312 億円と比較すると、3Q にスマートフォン向けの液晶の既存ラインへの追加的投資があり 327 億円に増加する見込み。

### 8. 来期以降の FPD 製造装置の受注はどうみているのか？2月から見方が何か変わったか？

A：8月の新中期経営計画開示時に具体的な数値等は説明するが、来期は当社から調達予定のパネルメーカーの新たな OLED 投資計画があり、また大型 TV 用 LCD の追加投資計画もあり、フィルムコンデンサ用の巻取り装置の引き合いもあることから、受注は今期よりは増えると思われる。

### 9. 3Q は半導体電子があまり増えていないが、半導体が下期から伸びるはずだったのではないかと？メモリ・ロジックの受注状況はどうか？

A：半導体関連ではメモリが年初から投資復活すると見込んでいたが、NAND で見込んでいた新規投資が移設対応となったため、期待したほど伸びなかった。DRAM の投資は回復しつつあり、DRAM の伸びが先行している。ロジックは期初計画に沿った形で着地見込み。

### 10. 今期受注が 1520 億円となると、来期売上は減収となるのではないかと？

A：今期は、受注取消 ▲34 億円、新型コロナウイルス影響等 ▲160 億円など特殊要因が重なったため、1,520 億円の受注となった。

現在、新中期経営計画を策定中で 8 月に開示を予定しているため、数値的な説明はできないが、メモリ (DRAM・NAND) 投資の復活、最先端ロジック・ファクトリー関連投資の増加、5G・スマート社会実現に向けた中国を中心としたエレクトロニクス投資の活発化などにより、来期受注は今期より増加する見込み。

来期の売上は確かに今期より低下するものと思われるが、新型コロナウイルスの影響によるインストール遅れ分が来期売上に貢献する面もある。

今期・来期は厳しい環境にあると認識しているが、5G やスマート社会化等成長チャンスは大きく、半導体電子を中心に、受注は来期から回復し、売上も来期を底に回復していくと見込んでいる。

### 11. 来期売上は減収となり、利益も悪化する可能性があると思うが、開発関連も含めた固定費コントロールについての考え方を教えてほしい。

A：2Q の修正開示時には、開発関連等の固定費が計画比増加すると説明したが、その後、開発計画について、ビジネス成果の大きさや伸び・競争力等を勘案し、優先順位付けを行いながら投資効果の低いものの絞り込みを行った結果、2月に増加を見込んだ額以上に固定費の圧縮を図ることが出来た。

開発関連の固定費を絞り込むものの、今後の5Gやスマート社会化に向けた技術革新の中でビジネスチャンスのある大きなテーマに集中して顧客ニーズにいち早く対応していく方針であり、開発効果はむしろ上がると考えている。  
引き続き固定費コントロールは確りとやっていく方針である。

## 12. 中国のエレクトロニクス関連の引き合いが増加しているということだが具体的には？なぜ、増加しているのか？

A: VR（仮想現実）やAR（拡張現実）などのヘッド・マウント・ディスプレイ等用のμOLEDやパワー半導体、通信デバイス向けなどの引き合いが増加している。

中国は、米中貿易摩擦等もあり半導体や電子部品分野の国産化を強力に推進しており、新型コロナウイルス後の景気対策としても力を入れていると聞いている。

### 【新型コロナウイルスの影響】

## 13. 新型コロナウイルスによる、営業・生産・物流・インストール・開発などへの影響はどうだったか？影響を最小限にするための工夫は行っているのか？

A: 渡航・移動制限により、訪問できないことによる営業活動の制約や装置のインストールができないなどにより受注・売上に影響が生じた。Web・ビデオ・電話会議等を活用したお客様との打ち合わせやインストール等のサポートにより補ってきたが、受注・売上に一定の影響は発生した。お客様のクリーンルームで電波が通じない、セキュリティ上の問題で通信機器を持ち込めないなどの制約もあったが、徐々にお客様の理解を頂きながらリモートでのインストール支援等も実現しつつある。

中国工場も春節明け後、各地方政府の指示に従いながら、いち早く操業を再開した。

日本・中国・韓国・台湾に主要生産・開発拠点を展開し、それぞれの地域ごとにサプライチェーンを構築済みであり、4極体制で相互にカバーできる体制によって特に問題なく生産・開発を継続している。

### 【新中期経営計画】

## 14. 新中期経営計画で何を指すのか？

A: 成長事業として、スマート社会実現のための技術革新を支える半導体・電子ビジネスを拡大していく。

こうした技術革新に対応した商品開発を強化するために、技術センシング機能を強化するとともに、開発テーマの優先順位付けを行い有力なテーマに経営資源の集中を行う。

また、設計から生産まで全ての工程における生産改革を進め、モノづくり力を強化することで、生産性と利益率の向上に取り組んでいく。

さらに、グループ経営資源や情報の共通化・共有化を実現するプラットフォームを整備し、経営の一体化・効率化を進めていく。

こうした経営改革を推進することで、これからの技術革新の潮流をビジネスチャンスとしてしっかりと取り込み、成長していきたい。

以上